

令和6年度 事業計画

社会福祉法人 丹原福社会

職務目標

【経理】

長期的な事業計画をたて、経費削減及び在宅サービスの安定した増収を目指し、日々資金の流れを意識しながら、資産状況の把握と経営の安定に努める。

【事務】

介護保険法の改正、施設内の変更を把握し、正確な案内と処理に努める。

【生活相談員】

特養

現場職員・多職種・他機関との連携の強化に努め利用者様の生活満足度向上を目指す。また、新規者の入居に関しても調査及び優先順位を明確にし、迅速な対応に努める。数値目標として稼働率 98%以上とする。

短期

新規の受け入れを積極的に行い、数値目標稼働率 75%を目指す。また、現場職員と連携を図りご利用者様にとって安心して過ごしやすい環境づくりに努める。定期利用に繋げることができるよう、ご利用者様のニーズを把握し日中の過ごし方（レクリエーション）を充実させる。ご家族様・ケアマネージャーへの報告・連絡・相談をこまめに行い信頼関係の構築を目指す。

【介護支援専門員】

利用者様や家族様の要望を聞き、施設サービス計画書に反映していく。また、家族様に記入していただいているアンケートを活用し、プラン作成に努める。

【管理栄養士】

ご利用者様の状態・体調を把握し、適切な食事形態・食具の見直しを介護・看護職員と実施していく。

栄養ケア計画の作成、家族様への丁寧な説明ができるよう日々のミールラウンド、現場職員とのコミュニケーションを行っていく。

【機能訓練指導員】

従来からある介護ロボットと福祉用具を利活用し、生産性向上と費用効果とを両立する。排泄場面においてスタンディングマシンの導入に至っていない5名のご利用者様に対して、使用の勧奨を行い、介助効率の向上や負担軽減など生産性向上を図っていく。費用効果の向上については、従来からある福祉用具のリストアップと使用状況の把握を行い利活用を図っていく。また、ADL維持加算算定のため毎月データの提出を行っていく。

居宅介護支援事業所

目 標

地域や病院、施設、地域包括支援センター、サービス事業所等の関係機関と連携し、引き続き各所からの新規相談を受け入れていくとともに、地域の社会資源の一つとして、支援困難のケースについても、事業所内ケアマネージャー間で情報共有とサポートをし合い、解決について引き続き取り組んでいく。

令和6年度の介護保険改正より、ケアマネージャー1人あたりの居宅介護支援の担当件数引き上げが行われたが、ケアマネジメントの質の確保の点からも各ケアマネージャーが1月当たり居宅介護支援30～35件、3名で月100件の担当数を令和6年度の目標とし、介護予防支援については、居宅介護支援の担当件数を勘案しながら受け入れを行っていくこととする。

また令和6年度中より「特定事業所加算Ⅲ」の算定を予定し、必要書類の準備等を行っていくこととする。

令和6年度 特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス 事業計画

事業所名	稼働率及び維持・向上の取組	チーム力強化の取組	事故再発防止への取組	コスト削減の取組	排泄の取組
特養 2階 U1	目標稼働率…98.4%日々のご利用者様の体調や表情の変化を観察し、変化を見逃がさない。変化があれば職員間で共有し、相談員や主治医に早期に連絡・相談を行う。また、事故による入院や退所を防ぐために、対策を徹底していく。	ご利用者様の身体・精神状況に合わせ、直近の不安心や疑問点を整理し、月1回の勉強会の課題とする。資料回収や個別研修など、個人のシフトに合わせ補正を行う。職員全員が知識・技術の強化を図れるようにする。併せて、緊急時対応について各分野ごとに統一資料の作成(1分野職2ヶ月)、柔軟に対応できるようにシミュレーションを含めた勉強会を行う	転倒転落のチャエックリストを活用し、各利用者のリスクの対策を立てる。対策は毎月1回、振り返りを行う。各自の視点の振り返りとして、3ヶ月毎にチャエックリスト記入とする。車椅子やベットの、介助用品の整備、点検を担当者が毎月1日・15日に定期に行う。	風呂や二層式洗濯機はタイマーを使用する。使用していない電化製品のコンセントは抜いておく。エアコンや冷蔵庫などのフィルターはこまめに掃除し消費電力の削減に努める。エアコンは気温に合わせて設定し、早朝夕方方は切る。ペーパータオルは1枚使用とすに努める。空箱などは細かく破り、ゴミの軽量化に努める。	排泄リズムを把握し、ご利用者様に合った介助方法でトイレ誘導を継続する。立位保持の為、下肢や腕の筋力の維持をはかる為に、毎日のレクリエーション時に体操を継続している。各部位の筋力強化の為、担当者が代わって同一の動きががままれるように、体操を共有する。
特養 2階 U2	目標稼働率…99.2%入居者様の普段の様子を観察し、違いの変化に気付く。日頃から1人1人の特徴をしっかり寄り添い、入居者様自身から環境の変化等を訴え、相談しやすいうえを目標とする。空所から6日以内の入居を目指す。	毎月のMTG以外に週1回SMTGを行い、話し合いの場を設け、ケアの統一をする。スタッフ間のコミュニケーションを強化し、入居者様のレベル低下が見られるため、終末期の兆候、急変時の対応について定期的に勉強会を行う。	転倒、転落、骨折事故の再発防止。スタッフ都合の対策だけでなく、事故対策チャエックリストを活用して入居者様の身体的、精神的変化に伴う事故リスクの評価を行い、事故対策につなげる。	入居者様が居室から出られる際に豆電球の消し忘れに注意する。ペーパータオルは1回2枚の使用を徹底する。物品の使用量を把握し適切な使い方を指導する。使用量の多いトイレは、基本的に乾燥機と洗濯物を乾かすための扇風機は使用しない。	入居者様の排泄状態を周知し、快適に過ごして頂けるよう自然な形で排泄を促す。MTG等で1人1人の希望を把握している。希望に沿った個別の活動支援、水分提供を行い、活動意欲を引き出す。
特養 3階 U3	目標稼働率…98.7%ご利用者様の体調管理に努め、表情等の様子観察をし、異変やレベル低下を早期発見し職員間で情報共有を徹底。他職種とも連携し早期発見による入院を防ぎ、相談員と協力し調査・入所をスムーズに行う。	年4回の勉強会を行う。知識…終末期の兆候・事故発生時の対応技術…ノーリフティング・更衣介助知識と技術を身に付けて自分で考え行動できるようにしたい。またその知識と技術を人に教え、教育が出来るようにしたい。	ご利用者様によってどのような場面でのような事故が起こりやすいかアセスメントを行う。その結果に基づいて各ご利用者様の居室、車椅子やフロアに危険が無いかの見直し、危険場所の保護を行い対策を図る。また、落ちない介護の徹底、入浴後の保温を徹底する。	電気節約 ・冷蔵庫・SS・扇風機は人がいない時は電気を消す。 ・SSのトイレの電気の消し忘れを防ぐ。 ・水道節約 ・トイレの洗浄機はタイマーを使い、水野出しはなすを防ぐ。食器用のタオルは、朝夕の2回に減らす。 ・消耗品の節約 ・おしりふき・ペーパータオル・洗剤	ご利用者様の排泄リズムの見直しを行い排泄リズムを把握する。 また排便-日の把握をトイレ誘導により尿失禁・便失禁を減らす。日々のレクリエーションに手足の運動と体操を取り入れ継続してトイレにて排泄させるよう努める。
特養 3階 U4	目標稼働率…98.7%ご利用者様の日々の様子観察・職員間で情報共有を行う。体調・レベルの変化に早期に気付く。各々の職員でも迅速にドクター・相談員に連絡・相談できるような連絡方法を周知徹底する。	前期は、根拠ある観察の視点が出来るようになるべく、しくみ・機能について勉強する。後期は、緊急時の対応について学び、マニュアルを作成する。(たれもがわかるように、言葉・置き場所を工夫する)	皮膚が薄く弱い方が多いため、内出血・表皮剥離を防ぐ。全身の観察と状態の情報共有を行う。①6月までに全ご利用者様の使用している車椅子・ベッド用等1人ひとり見直し、危険な場所を保護を行う。また、皮膚の保護・保護を定着②3ヶ月後には保護の劣化がないか、あらたに保護が必要かを検討する。	引き続き、日差しやご利用者様の居場所をみながら不要な照明を消し、節電を意識する。・洗濯を減らす。・食卓のタオル・エプロンの洗濯を1日3回から朝夕の2回に減らす。汚れがひどくない場合は1回に減らす。1日3回の設定に節水を心がける。 洗濯物や食器乾燥はまとめて行う。消耗品(ペーパータオル、洗剤、手袋等)は必要以上使用しないようにする。雨天時以外は、乾燥機は使わないようにする。	・円背の方、立位が低下している方がトイレで排泄を継続できるように下肢筋力の維持・回復を目指す。毎日のレクリエーション時に手の運動や足踏み体操を実施する。6月までに排泄パターン・タイムミングを把握。9月までに排泄リズムを整え、尿失禁・便失禁を減らし、スキントラブルを防ぐ。
特養 4階	目標稼働率…98.7%ご利用者様の体調の変化に気づき、職員間の情報共有、他職種と連携し、重症化しないようにする。体温測定2検(朝・夕)の継続。退居などにより空室になった場合は相談員と連携し、新規入居者様の確保に努める。	職員の技術の低い所をMTG等で話し合いを行い知識・技術を高める。MTG以外でも必要に応じて話し合いが出来るように調整を行い、個々のスキル向上を目指す。	ひやり・はつことの活用、職員間の連携を行う。事故を未然に防ぐようにする。環境整備(まず先に保護をするなどの対策を行う。)	洗濯物や食器乾燥はまとめて行う。消耗品(ペーパータオル、洗剤、手袋等)は必要以上使用しないようにする。雨天時以外は、乾燥機は使わないようにする。	個室の方、立位が低下している方がトイレで排泄を継続できるように下肢筋力の維持・回復を目指す。毎日のレクリエーション時に手の運動や足踏み体操を実施する。6月までに排泄パターン・タイムミングを把握。9月までに排泄リズムを整え、尿失禁・便失禁を減らし、スキントラブルを防ぐ。
シヨト	目標稼働率…70%構造的に様々なご利用者様を受け入れる。利用時のご利用者様の様子観察、職員間の情報共有を徹底し、受け入れ態勢を整え、ご利用者様1人1人に『来てよかった』と、充実して頂けるサービスを提供。	①危険予知トレーニング ②認知症との関わり方について ③接遇マナー ④充実したレクリエーションについて ⑤全体レク ⑥個別レク ・余暇の時間の過ごし方	職員間で、転倒リスクの低い把握。①1人1人のような行動が転倒事故に至るか、その行動を起こす理由や気持ちを理解し解決できるようなる。・様子観察、情報共有の徹底→チャリハットを活用し、大事事故を未然に防ぐ。・環境整備→自立している方、1人でないと落ち難くない方等、職員が常に付き添うことが難しい方でも安全で過ごしやすい環境を準備。	・居室、浴室、汚物室の換気は必要を時のみ使用し、使用後は切り忘れぬこと。タイマーを使用し、換気は天気の良い日に、乾燥機の使用は必ず、ペーパータオルのみ乾燥機を使用し、湿気のないものは室内にて自然乾燥。・食器用エプロン、タオルの洗濯は夕食後の1日1回のみ実施。・敷きパッド、パジャマ洗濯回収の頻度を減らす。	個室の方、立位が低下している方がトイレで排泄を継続できるように下肢筋力の維持・回復を目指す。毎日のレクリエーション時に手の運動や足踏み体操を実施する。6月までに排泄パターン・タイムミングを把握。9月までに排泄リズムを整え、尿失禁・便失禁を減らし、スキントラブルを防ぐ。
テ	目標稼働率…70%(実人数21人)・キャンセル時の振替利用、追加利用を積極的に行う。・新規利用利用者様依頼時の迅速な対応をする。・各事業や名クラブ等ハンフレットを配布し、取り組みやその成果のホームページを強化する。・ご利用者様、ご家族様の要望をアンケート等で行い、職員全体で情報共有、検討・実施することで満足度を高める。	年3、4回の勉強会を行う。入浴介助の基本を知識、技術から学ぶ。認知症知識の向上と関わり方を学ぶ(対応についてはその都度職員全体で共有、検討、実施する)。・緊急時の対応について学び、再度マニュアルを作成する。・アンカーマネジメントについて学び、より良い職場環境を作る。	・昨年度に続き、転倒事故があった。朝礼時にリスクの高いご利用者様の確認と安全な環境作りを徹底する。また、機能訓練や活動に励む。・上下肢筋力の維持、向上に努める。3か月後に事故、転倒の振り返りとしてその改善策、対応に努める。・事故に際しては、職員全員がしっかりと活用、危険予知トレーニングを職員全員で行うこと、その都度情報共有、検討し対応に努める。	・電気、換気扇の消し忘れ(送迎時のトイレ、退社時)を防ぐ。・お風呂の湯の出し忘れを防ぎ、洗濯物は、まとめて洗う。・エアコンフィルターに掃除機、扇風機の掃除を行い、消費電力の削減に努める。・困り問題等意識して無駄に破壊することのないように使用して頂く(完成品は持ち帰る)。・使用できるものは再利用してし道具や創作活動等に使用する。	個室の方、立位が低下している方がトイレで排泄を継続できるように下肢筋力の維持・回復を目指す。毎日のレクリエーション時に手の運動や足踏み体操を実施する。6月までに排泄パターン・タイムミングを把握。9月までに排泄リズムを整え、尿失禁・便失禁を減らし、スキントラブルを防ぐ。